



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.55

'10夏・秋号

ミントの香りの
お線香
DOUBLE MINT

爽やかな香りのブレンドを
お楽しみください。

《ダブルミント香》は二つのミントの香りを配合しました。

ペパーミントは清涼感があふれるクリアな香り。

眼気をさまし、気分をすっきりさせてくれる働きがあります。

もう一つの香りスペアミントはマイルドで優しい香り。

緊張感をほぐし、リラックスさせてくれる成分が
含まれています。梅栄堂の《ダブルミント香》は

この二つの香りを絶妙にブレンド。

爽やかで、優しい香りのハーモニーをお楽しみください。



ダブルミント香 煙ひかえめ

●標準小売価格 1,050円 (本体価格 1,000円)



創業三百有余年

梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁1番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>



堺市長 竹山 修身

香りのこと 堺のこと

◆ ◆ ◆
暮らしの中に
溶け込んでいた香り

私は生まれも育ちも堺です。中でも私が育った中之町は旧市街でお寺も多く、地場産業のお線香屋さんも多かったものですから、お線

香の香りには、慣れ親しんで育ちました。ご存知のように、線香は堺が発祥の地。生活の中に漂っていた香りですから、私にとってはとても親しみを感じる香りといえるでしょう。昨年の十月に市長の職につきましてから、お休みをいただいたのは、年末年始の四日間だけで、公務に追われる毎日です。結構帰宅時間が遅くなることも多く、夜は疲れてすぐ寝てしまいます。それで、朝は四時過

ぎに起きて、その日の公務の下調べをするのが日課になっています。その時、最近お世話になっているのが梅栄堂さんのコーヒーマスターの香りのお線香（残香飛）です。あまり癖のないふわっとした香りで気に入っています。これを焚いて、アイスコーヒーマスターを飲みながら、爽やかな朝の二時間余りを勉強時間に当てています。堺は昔から優秀な鑄物の産地で、それが堺の刃物につながり、戦国時代にはその技術を生かして、鉄砲の産地としても重要な役割を果たしました。そして鉄砲の技術は、現在の自転車産業へと形をかえながらも、脈々と受け継がれています。伝統を生かして新しいものを創り出していくという、進取の気風は堺人の得意とするところですが、先ほどの《残香飛》も、伝統産業に、時代の要望を組み

◆ ◆ ◆
込んだ新しいお線香といえますね。
しっかりと市政を見てください

それでは堺市のことについて少しお話しさせていただきます。

私は「まち、市民、子ども、産業を元気にする」という方針のもと、市民の視点に立った市政の改革と、新しい町づくりを目指してまいりたいと思っております。中でも将来を担う「子どもを元気にする計画」の一環としては、本年度から中学生までの医療費の補助を全国トップクラスで実施することになりました。また、救急時に相談できる「救急安心センター」も稼働を始めています。「病気やけが」などの緊急時に気軽に電話で相談できるもので、医師、看護師が常駐して、緊急時の不安に即答してもらえます。一人でお住まいの

方にも、電話で相談ができる安心のシステムです。救急車を呼ぼうか、どうしようか迷ったときなど、気軽に相談して下さい。また、厳しい財政の下、人員削減を含む人件費の削減（十六億円）も実施いたしました。これからも真剣に、かつスピーディに市政改革に取り組んでいくつもりです。そのためには、いろいろな方面に出かけて、自分の目で現状を知りたいという思いで、スケジュールはできる限り詰めてもらっています。この仕事は何より体力が必要だというのが最近の実感です。また、堺市では広報やホームページでお知らせしていますが「市民の声」の投書を随時募集しています。ぜひ市政に興味を持っていただき、何か感じられたときは、ご要望、ご意見（批判も含みます）をお寄せ下さい。「元気で、

住みよい町」にするための意見・提案ならば大歓迎です。私は全てを読ませていただいています。また、回答も公表されています。しっかりと市政を見ていただいて、魅力のある町づくりのためにご協力ください。

◆ ◆ ◆
新しい堺を発見「観濠クルーズ」

さて、かたい話はこれぐらいにして、最近堺の旧市街に、ガイドマップを手にして堺の町を散策されている観光客の方をよく見かけるようになりました。観光スポットとしても注目を浴びはじめている堺ですが、ここで「取っておき」の観光の穴場をご紹介します。それは堺の「観濠クルーズ」です。（TEL 072-229-8851）中世の堺が自由都市だった頃にできた堀「環濠」を約四十五分間観光船で巡るもので、堺駅近くの乗船場か

ら出発。内川・土居川をクルーズして港までを往復するものですが、地上から見る堺の町とは一味違い、四季折々の風景と重ねながらのんびりと堺の歴史ある町並みを見ることができます。私も長年住んでいながら水上から見るのは初めてで、今までと違った視線で見る町はとても新鮮。改めて堺の魅力を発見できました。堺にはこのようにまだまだ、知られていない観光スポットもたくさんあります。堺以外にお住まいの方も、機会があれば、ぜひ一度、「堺」へお越しください。

（談）

堺市プロフィール

平成18年4月1日より
全国15番目の政令指
定都市に移行。
環境モデル都市にも選
定されています。
人口は838,732人
(H22.4.1現在)





タブの花▶

タブの樹木を求めて

米田 該典

線香には欠かせない材料

抹香など乾香を作る時は、香木を碎片化して混合するだけで合香を作る事は出来る。しかし、練り香や線香などでは、香木類は粉末化して整形しなければならぬ。粒子が細かくなったことで、水で混ぜただけでも、短時間なら形も整うが、型崩れはしやすく、燃焼の目的も達し得ない。そのため、練り香には蜂蜜が、線香にはタブノキの樹皮末が加えられ、整形されてきた。その目的は粘結材としての役割にのみある。粘結材に必要な事は、燃焼時に、異様なにおいを発しないことである。

その点では蜂蜜や、タブノキの樹皮を用いて来たのは、見事な洞察と言わねばならない。

アジア各地に自生するタブ

ところで、タブノキ、又はタブとは聞き慣れない名前であろうが、国内の暖地には広い地域で自生し、常緑で大木となることから、目にする機会は少なくないはずだが、気がつかないだけでしよう。日本に限らず、暖地の海沿い地域に多く見ることが出来る。海外でも、東南アジア各地、台湾、中国、朝鮮半島各地の海岸沿いに、多く分布している事には変わりはない。植物学的には、同種の植物は六十種ほどが東く東南アジア各地で知られている。形状が類似するだけでなく、

植物学的にも近縁の仲間にはアボガド類の樹木があつて、学者によっては、学名の上で同属である、とするほどである。でも、線香などに代用出来るかといえ、正直判らないが、今まで経験したアボガド類数種の限りでは無理なようである。

タブノキの樹皮を一旦乾燥させ、粉末化して水と練っただけで粘稠となる。このような粘りの性質を持った樹種は少なくない。しかし殆どの樹種は燃やすと不快でなくとも少なからず蒸りを発する。そうすると線香に配合する目的が失われてしまう。香人はそのこと



▲水で練ったタブ粉の粘りを調べる



▲タブの木が生えているベトナムの山地

を早くから知っていたようである。ところで、今日では、国産のタブ粉は少なくなつて、多くを東南アジアのタブの類に依存している。化学的に見ても、線香に利用する上では問題はないのだが、東南アジア系のタブ粉は水と練ったとき国産に比べて、粘度が強い傾向にある。南アジア数カ国で得たタブ粉が試験量ほどだが眼前にある。確かに共通して粘りは強い。従来通りの使い方は出来ないのだからと思う。

利用範囲がひろい素材

タブノキの樹皮は、様々な形で利用されてきた。例えば、線香の作成時に配合するのはその粘稠を引き出すためであるが、その粘液質は樹皮だけでなく、葉にも含まれることから、葉を粉末として糊粉と称して、粘りのない穀物粉に糊粉を混ぜて、餅として利用することもあった。

また、タブノキの材にはクスノキ科植物の共通性として弱いながらも芳香がある。それはオイゲノールと言われる成分などが含まれているからである。材は淡灰褐色で、緻密ではあるが、そんなに堅くはなく、工作はしやすい。そこで、建築用や調度類の造作、細工物などに利用され、かつては、大型写真機の木部や楽器、さらには根部には特異なこぶを生じ、

その部分の木目が美しい事から、パイプの材料としたり、茶棚、香棚を始め書院の間の棚材、また、盆材など美術用材として利用されてきた。各地の遺存財物の中にも、その類を見ることが出来る。しかし、今日では良材は少なくなつていて、材木屋に行つても見る事は殆どない。樹皮は伊豆諸島を始め南方各地では褐色ではあるが、褐色の染料として古くから使用されてきたようだ。



Profile
プロフィール

米田 該典
(よねだ かいすけ)

所属：大阪大学大学院医学系研究科医学史料室
薬学博士 神戸市生
専攻：文化財の材質調査と保存の科学
薬用資源学 薬史学
薬学時代には正倉院薬物を調査し、博物館へ移籍後は文化財全般に枠を広げ、いつの間にか海外の文化財にまで手を広げつつある。



ローレル(月桂樹)

アポロンが愛し続けた木

ローレルは、和名で月桂樹、フランス語でローリエといわれるように、各国で親しまれているハーブです。原産地は、ヨーロッパ地中海沿岸地方で、クスノキ科ゲッケイジュ属の常緑喬木です。温暖な土地を好み、現在では、ギリシャ、メキシコをはじめ、世界各地で栽培されています。

ローレルは、古くから愛された植物で、ギリシャ神話にも登場しています。太陽神アポロンがひたすら愛した女性がダフネ。彼女を追いかけ、やっと捕らえることができると思った瞬間、ダフネは

ローレルに変身してしまいました。アポロンは、その後もダフネを愛し続け、ローレルの葉で自分の冠(月桂冠)を作ったことから、アポロンが愛した神聖な木として尊ばれました。

また、ローレルはその高貴な香りから、様々な宗教儀式でも用いられるようになりました。英雄や勝者には月桂冠を与える習慣も生まれ、古代オリンピックで優勝者を讃えてこれを贈ったことから、現在でもスポーツの祭典では、ローレルで作った冠を見かけます。

ローレルは私たちの日常生活でスパイスとして大いに役立ってくれています。ローレルの乾燥した葉は特にシチューやブイヤベースなどの煮込み料理には欠かせないもので、魚や肉の臭みを消して独特の風味を引き出してくれます。

また、ローレルの葉からは水蒸気蒸溜法で精油が抽出されます。精油は新鮮でスパイシーな独特の香りを持続性があります。ローレルの精油は石鹸や化粧品のほか、ブレンドして香水の香材としても幅広く使用されています。

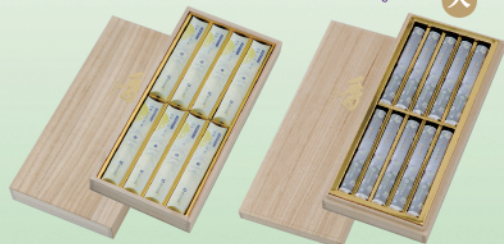
●商品紹介

沈香好文木・微香好文木

桐箱入

ご進物にふさわしい
より上質なパッケージでお届けします。

好文木の天然の香りを生かしながら、時代にふさわしい煙をひかえたお線香
《沈香好文木 煙ひかえめ》
《微香好文木 煙ひかえめ》ですが、その気品ある香りにふさわしく、より上質のパッケージでお届けすることになりました。希少な香木、奥ゆかしい香りを、ぜひ、先様にお届けいただきますようご案内申し上げます。



●微香好文木 煙ひかえめ
短寸バラ8箱詰桐箱
3,150円 (本体価格 3,000円)

●沈香好文木 煙ひかえめ
短寸小把10把入桐箱
5,250円 (本体価格 5,000円)

●話題

老舗の気構え

JFC(旧中小企業金融公庫)中小企業だより(Vol.3)では、「老舗企業に学ぶ」と題して、

ユニークな事業展開を試みる企業として、現在、未来について、社長の熱い思いが伝えられました。

ニューヨーク・ギフトショー
恒例になりましたZINのギフトショーですが、今回で五度目の出品となりました。梅栄堂のプースは、常連客も増え、

香り考察

雑誌WHISKY(Japan)では、「香りに魅せられて」と題して《お香》を取り上げ、編集長のダイヴ・ブルーム氏自ら、我が社に足を運んで、取材されました。香りというテーマから、ウイスキーとお香の共通点、相違点を見出しながら、それぞれの分野の未来を考察されました。

中でも、(IMAGINE)シリーズと《飛び梅》の人氣が高く、香りの良さとともに、「パッケージが美しい!」と大変好評をいただきました。

新聞掲載記事

日経流通新聞では、天然精油を使い、リラックス効果と気分をすっきりさせる効果が期待できる線香として《ダブルミント香》が紹介されました。

■古香堂

ホームページリニューアル
梅栄堂のアンテナショップ、「古香堂」のホームページが、新しく生まれ変わりました。ぜひ一度ご覧ください。

http://www.kokondo.jp

